

▶▶▶第4次丹波市男女共同参画計画

丹(まごころ)の里 ハーモニープラン ができました

「ジェンダー平等のまち」丹波をめざして

丹波市男女共同参画審議会 会長

中里 英樹 (甲南大学 教授)



本年3月に、10年の計画期間を持つ第4次丹波市男女共同参画計画が策定され、この4月からスタートしました。この計画には、めざすまちの姿として、「一人ひとりが個性と持てる力を発揮できるジェンダー平等のまち」が掲げられています。

私は、市長からの諮問を受けてこの計画の案を検討する「丹波市男女共同参画審議会」の会長として委員の皆さんと議論を重ね、その中で、この計画策定に向けた委員の皆さんの熱い思いを目の当たりにしてきました。それが込められた言葉のひとつが「ジェンダー平等のまち」です。

計画策定の根拠になっているのは男女共同参画社会基本法です。この法律が策定された当初から、その根幹にあった理念は「ジェンダー平等」で、実際、英語で表記する際は Gender Equal Society という表現が使われています。よりわかりやすい表現として「男女共同参画」が使われるようになりましたが、この理念は、ただ男性と女性が一緒に力を合わせるということをめざしているわけではありません。

私たちは、さまざまに異なるところのある個人々々を、「男性だから」「女性だから」とたった2つの枠に当てはめて単純化して、自分や家族、さらには他人の可能性を狭めてしまいがちです。また、そのような考え方が、社会のさまざまな制度や慣習に入り込んでおり、そのことによって、本来持っている力を発揮できなかつたり、さらにはそのような社会で生きることにつらさを感じる人たちがいます。本計画で「ジェンダー平等」をこのまちのめざす姿としていることは、こうした状況からの解放に向けてのより明確な意志の表明となっています。

さらに、より具体的な計画内容を見ていただくと、農業経営や自治会の意思決定への女性の参画など、地域の課題を直接感じ取っている委員さんたちや「関連団体ヒアリング」「市民ワークショップ」等に参加された市民の皆さんの声が反映された、本市の独自の内容が随所に盛り込まれています。

市のホームページや冊子体で公開されていますので、ぜひ手に取ってご覧になってください。

男性育休の社会学

著：中里英樹 発行：さいはて社

男性育休取得率向上の先に、われわれは何を目指すべきなのか？

日本、ドイツ、北欧での調査をふまえ、育児をめぐる文化や言説、制度の内容、改正のプロセス、実践について分析し、構造転換に向けて方策を提示する。ジェンダーにとらわれない子育てと夫婦のワーク・ライフ・バランスを模索し続けてこられた中里教授の1冊です。

…男女共同参画センター図書コーナーでご覧いただけます…

令和5年2月新刊

